

Q1 土づくり肥料はどうして必要ですか？

A1

一言で言えば、土への栄養補給です。

土は、一年間水稻を作った分だけ痩せています。人間も働いた後は栄養を取らないといけなように、土も栄養補給をしないと、次の年にいいお米を作ることができません。そのため、土への栄養補給剤として、土づくり資材の施用が必要となります。

Q2 とれ太郎はどんな土づくり肥料ですか？

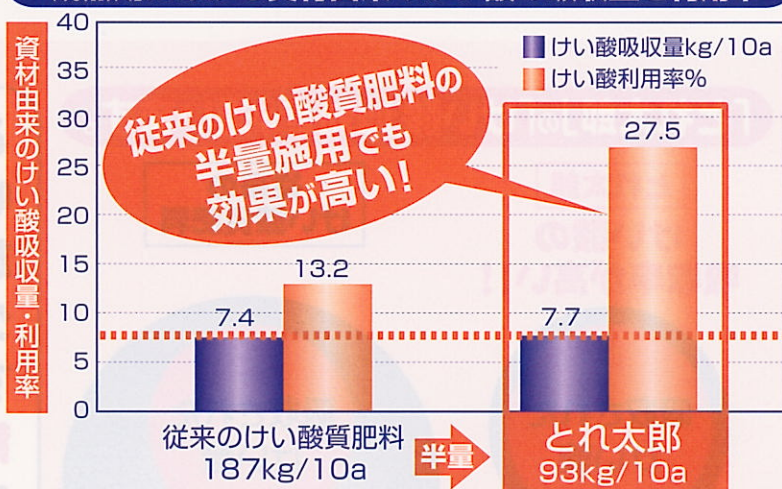
A2

①従来の肥料に比べて溶解性が高いため（弱酸性pH5～6の条件）けい酸の利用率高く、省力・低コストタイプの土づくり肥料です。

②けい酸のほかにりん酸・苦土・石灰をバランスよく含んでいる総合的な土づくり肥料です。

③土壌の酸性を穏やかに矯正します。

成熟期における資材由来のけい酸の吸収量と利用率



(注) 平成11年度 農林水産省 中国農業試験場におけるコシヒカリの圃場試験場成績から

Q3 とれ太郎の主成分でもあるけい酸はどんな効果がありますか？

A3

稲体がけい酸を吸収すると、茎や葉が直立し下葉まで光が良く当たるようになり、そのため登熟歩合が高くなります。そして品質向上や一等米比率の向上につながります。また、倒伏防止効果も期待できます。

Q4 とれ太郎を施用するとおいしい米（粒張りのよいお米）が出来ますか？

A4

一般的に「おいしい米」というのは、米の中の蛋白質とアミロースの含有が低くなりますが、特に蛋白質含量の高低が一番の要因となります。蛋白質含量を低く抑えるには、窒素を適正に施用するだけでなく、けい酸を十分に吸収させて粒張りのよいお米をつくるのが重要です。さらに苦土が多い米が「おいしい米」と言われています。「おいしい米」に、苦土とけい酸が役立つのです。

Q5 施用量、施用時期は？

A5

水稻：土づくり肥料として、秋施用（秋から冬にかけての荒起こし前）、または春施用（春先の水田耕起用時や基肥施用時）に、標準施用量80～100kg/10a。
（土壌診断結果に基づいて適量施用）